

邦画新報

第2号

2026年
1月1日 元旦
木曜日

発行 無名社編集室
〒117-4126 東京都東港区一満寺871
電話 03-714-0092

この配布物は無名社が暗躍の末、血と汗と涙の結晶として作られたものです。無断転載は禁止します。掟を破ると無名社社則により天誅(股裂き、地獄車、脳天唐竹割り、地獄突き、蠟固め、岩石落とし、原爆固め、人間風車、脳天杭打ち、月面水爆、卍固めなど好きなものを選択可)が下される恐れがあります。

一万慈鶴恵 改名疑惑に新事実

新証拠見つかる!!

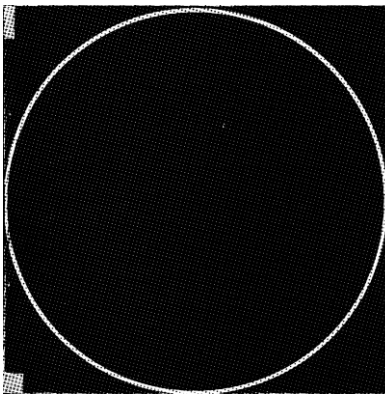
先日、本紙読者のいとうたぐや氏から貴重な情報をお寄せいただいた。以前本紙がスクープ報道して業界を震撼させた「一万慈鶴恵改名疑惑」に関しての新情報の存在を知らせるものであった。

その情報とは、「出演者名簿昭和43年度版」(著作権資料協会、1967年)という冊子を発見したことである。この冊子はいわゆる芸能人の住所録である。当時は個人情報に関してはいわゆるさくなかった時代、映画俳優などの著名人の住所録が普通に出回っていた。発見されたのはそんな中の一冊。氏が国立国会図書館にて調べ物をしているときに、たまたま見つけたという。この冊子には芸名、住所、電話番号、所属、生年月日が記載されている(残念ながら本名の記載はない)。この冊子の37ページに「一万慈鶴恵」が掲載されている。住所欄には「〇〇区… 木浦方」と書

かれていた(詳細住所は調べられなかった)。ところが、昨今の個人情報保護の観点から本紙での発表は控えさせていた。一万慈鶴恵は木浦家に住んでいるということであろう。

本紙は更なる証拠発見を期待しつつ、国立国会図書館を訪れた。「一万慈鶴恵」、「木浦スミ江」など本件に関係のある氏名が掲載されている蔵書を探し

出演者名簿 43年度版



てみたところ「タレント名簿録…芸能手帳1970年度版」(連合通信社、1970年)を見つけた。この冊子も著名人の住所録である。この冊子の40ページには「木浦スミ江」が掲載されており、住所、電話番号ともに「出演者名簿 昭和43年度版」のものと同一であった。

以上の事実により、かなりの高確率で「一万慈鶴恵」と「木浦スミ江」は同一人物であると言えるのではないだろうか。これら二冊の冊子いずれにも「一万慈鶴恵」と「木浦スミ江」の両方が同時に記載されてはいない。このことは同一人物の可能性を示唆することにつながる。同一人物であれば改名したと考えるのが自然であろう。

ただ、「一万慈鶴恵」と「木浦スミ江」は別人で同一住所に住んでいる、と考えられなくもないので「同一人物である」と言い切ることは現時点では難しい。

さて、筆者はこの住所の住宅地図を参照してみた。近隣図

書館に所蔵されていた1962年版、1970年版、1998年版の三冊を確認したところ1962年版と1970年版では該当住所に「木浦」の名前を見つけたことができた。1998年版ではアパートになっていた。

本記事で取り上げた二冊の冊子は1967年と1970年の発行である。この間に発行された同様の住所録があれば確認したかったのだが、国立国会図書館にも収蔵されていないようだ。別の図書館もしくは個人で所有している可能性もあるので地道に調査活動を継続していくしかない。今回のいとうたぐや氏の発見は2026年お正月の大きなお年玉であることは間違いない。

(安居上夫)

